

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
知的財産マネジメント特論／知的財産経営戦略特論(応用)【MS】 (Advanced Study of Intellectual Property Management/Advanced Study of Intellectual Property Management Strategy (Practice))	MPCD18/ MPCD10	2	1年次	後期	内藤 浩樹(ナイトウ ヒロキ)

授業のねらい概要	企業内でその知的財産戦略を有効に遂行するためには、知的財産に精通したスキルを有する人材による知的財産業務の遂行が必要である。そのためには、事業活動への貢献に向けた研究開発、ブランド、デザイン、コンテンツに関する知的財産活動について、その業務の評価、判断を中心とする知的財産業務のマネジメントが必須である。 この講義においては、企業内における知的財産業務に関するマネジメントの基本、例えば企業内の知的財産ルールのある在り方、職務発明の取り扱い、特許事務所の活用手法、人材育成の方法などを学ぶことにより、企業あるいは法律事務所において知的財産の担当を目指す人、知的財産業務に精通した責任者を目指す人を育成することを目的とする。
----------	--

回数	テーマ	授業の内容・教育方法	予習/復習
第1回	知的財産戦略とマネジメント	講義のガイダンスに加えて、企業における知的財産戦略とマネジメントの関係について学ぶ	講義資料の熟読による復習(4H程度)
第2回	コンテンツ保護と知的財産活動	コンピュータソフトウェアを含む広義のコンテンツビジネスに関する著作権を中心とする知的財産活動の動向と事例について学ぶ。	講義資料の熟読による復習(4H程度)
第3回	ブランド価値向上と知的財産活動	商品、サービスの顧客吸引力を向上させるブランディングと、それを支える商標権を中心とする知的財産活動の動向と事例について学ぶ	講義資料の熟読による復習(4H程度)
第4回	デザイン力強化と知的財産活動	イノベーションの創出に向けたデザイン戦略の考え方と、産業デザインの保護に向けた意匠権を中心とする知的財産活動の動向と事例について学ぶ。	講義資料の熟読による復習・レポート提出(4H程度)
第5回	技術開発と知的財産活動	研究開発成果としての知的財産の創出に向けたインセンティブ施策、知的財産の取得と活用の事例について学ぶ。	講義資料の熟読による復習(4H程度)
第6回	知的財産リスクの回避手法	第三者の知的財産の侵害リスクに対する計回避等の事前対策、警告、訴訟を提起された場合の基本的な対応策について学ぶ。	講義資料の熟読による復習(4H程度)
第7回	企業内の知的財産運営方針の立案	仮想の事業環境に基づく知的財産活動についての運営方針の策定をテーマとするグループ討論。	講義資料の熟読による復習、グループ討論(4H程度)
第8回	知的財産活動と組織	知的財産の創出、保護、活用のサイクルの中で、企業として遂行すべき知的財産活動の内容と、それを支える組織のあり方について学ぶ。	講義資料の熟読による復習、前回討論内容のレポート提出(4H程度)
第9回	知的財産活動を支える人材	知的財産マネジメントの基本は、人材のマネジメントであり、企業の最大課題である知的財産担当者の育成の手法と、社外専門家の活用手法について学ぶ。	講義資料の熟読による復習(4H程度)
第10回	営業秘密の管理方法	企業において、技術ノウハウとして管理するための判断手法と、その管理手法について学ぶ	講義資料の熟読による復習(4H程度)
第11回	知的財産活動の定着化に向けた社内規程	知的財産活動を企業内に定着化されるための社内ルール策定とその運用のしくみについて学ぶ	講義資料の熟読による復習(4H程度)
第12回	職務発明の取り扱い	企業における職務発明の規定の考え方と運用について学ぶ	講義資料の熟読による復習(4H程度)
第13回	出願価値判断とグローバルな権利化手法	特許出願の価値判断手法と、その出願可否、出願国の選定、グローバルな権利化の手法について学ぶ	講義資料の熟読による復習(4H程度)
第14回	知的財産と認証	企業の競争力強化に向けた認証制度のグローバルな動向を学ぶ	講義資料の熟読による復習(4H程度)
第15回	企業内の知的財産計画の立案	仮想の事業環境に基づく知的財産活動についての具体的な中期計画立案をテーマとするグループ討論。	講義資料の熟読による復習・グループ討論、講義後のレポート提出(4H)

到達目標	1. 企業における知的財産マネジメントの仕組みが理解できる。 2. 企業における知的財産計画が立案推進できる。
評価方法	講義内容の理解度を評価 ・レポート内容(講義中に提示する演習課題に関するレポートの充実度):70% ・講義への参画度(出席頻度、質疑応答を通じた講義への参画度):30%
成績評価基準	レポートにより、到達目標1を達成しているかを判定する。達成していない場合、本単位を取得できない(欠格条件)。 到達目標1を達成している場合に限り、到達目標の2の達成度を、評価方法に示す内容で総合的に判定する。A:到達目標、評価方法を勘案し、すべてを総合して平均90%以上の達成度で実施できている。 B:到達目標、評価方法を勘案し、すべてを総合して平均80%以上90%未満の達成度で実施できている。 C:到達目標、評価方法を勘案し、すべてを総合して平均70%以上80%未満の達成度で実施できている。 D:到達目標、評価方法を勘案し、すべてを総合して平均60%以上70%未満の達成度で実施できている。 F:上記以外

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名

受講心得	経営的な視点からの応用力を身につけるために、仮想の事業事例に基づく戦略策定の演習を、講義と並行して行いますので、積極的な受講をよろしくお願いいたします。 講義の円滑な遂行に向けて、講義資料の配布、レポート提出の手續きにおいて、コミュレボを積極活用します。 課題発表、課題レポートに対しては、講師からコメントを行いますので、その内容についての復習をお願いします。 なお、本科目は双方向形式メディア授業に対応しています。
オフィスアワー	社会人も対象とする梅田キャンパスにおける講義につき、授業時間の前後において、質問を受け付けるとともに、それ以外の時間帯も、個別連絡に基づく質問や相談に応じ、また、日常的にメール等による相談も受け付けます。 原則、講義終了後、水曜日の7限目、梅田キャンパスのロビーとします。